資　　料　　2016/07/25　福島浩彦

７月 10 日 投票日の福島あいさつ（要旨）

皆さん、どうもありがとうございました。本当にご苦労さまでした。

私は今日からまたスタートだと思っています。この選挙、結果だけ見ますと従来の延長のように見えるかもしれません。けれど私は、全く中身が違ったと思います。

一つは、市民が国政選挙をやる中心的な主体として登場した。市民が有権者として投票先を選ぶだけではなくて、選挙そのものに取り組んでいく主体になる、この意義は非常に大きいと思います。それからもう一つ、野党が統一しました。野党連合ができた。この意義も、言うまでもなく非常に大きいと思います。

この二つを考えた時、これから新しい政治を作っていく、その確かな一歩になる可能性があります。少なくてもその芽は生み出しました。この芽を、このあと踏みつぶされてしまうのか、それとも本当にしっかりと育て大きな木にしていけるのか、それはこれからの私たちの活動にかかっていると思います。

安倍政治の暴走を止めることもこれからますます重要になります。皆さん、ぜひ一緒に頑張っていこうではありませんか。

選挙を振り返って（総括のまえに）　　福島浩彦

私は今回の選挙で、次の３つを大切にしました。

１．市民が選挙の主体になり、野党と共同する

市民は有権者として投票先を選ぶだけではなく、国政選挙に取り組む主体の一つとなり、市民が政治家と議論しながら選挙そのものを作っていく。その結果、野党連合を生みだす。この試みは、少なくとも鳥取・島根では初めてでしたが、ぎくしゃくしながらも、とにかく実現しました。

２．政策や考えを徹底して話す。これをすべてに優先する

選挙前は１１０以上の講演会・対話集会を行い、公示後は約５５０か所の街頭で演説しました。講演会・対話集会では、市民との意見交換の時間をできる限り多くとりました。街頭演説へは、「話を聞いて投票することにした」「地道に確実に有権者の心に届く選挙活動に感動した」「話の内容が具体的でストンと胸に落ちた」などの声が連日寄せられました。

３．普通の市民感覚を生かした選挙にする

市民感覚の政治を実現するには、市民感覚の選挙が必要だと考えます。タスキをかけないのはその象徴でした。候補者カーのマイクの「懇願調」「絶叫調」もやめました。多くの市民は引いてしまうからです。

もちろん今回、島根・鳥取の自民党王国を崩すには至りませんでした。しかし新しい芽は生まれたと思います。無党派層の**５５．１％**（鳥取県は６５．９％、日本海新聞より）、比例区の推薦野党の合計（国民怒りの声を含む）より**プラス１０％**（鳥取県は２７．５％）の票を得たことを見ても、この方向を前に進めていくことが重要と考えます。